上智大学金祝燦燦会

2025 年 11 月発行
第 12 号

出来る時に、
出来る事を、
出来る人がヤル

さんさん 燦燦ニューズレター

発行　上智大学金祝燦燦会
〒102-8554
東京都千代田区紀尾井町 7-1
上智大学ソフィア会事務局気付

勉学奨励金授与式

2025 年度の金祝燦燦会勉学奨励金授与式が去る 7 月 31 日紀尾井亭「葵の間」で行われました。式には、

今年受給することが決まった 15 名の留学生の内欠席の 1 名を除く 14 名と、サリ理事長、横山副学長をはじめ、杉本学生局長、中村ソフィア連携室長など来賓の方々および燦燦会の会員、併せて 40 名余りが参加しました。

式は濱口前燦燦会会長の指揮による上智大学校歌の斉唱に始まり、続いて畔柳会長より、燦燦会が様々な活動を行う中で勉学奨励金が燦燦会の活動の原点であり、今年で 13 回目を迎える間、累計で 118 名の留学生に総額 602 万円を支給してきたこと、そしてその原資は全て会員による「一口千円募金」によって賄われていることなどの紹介がありました。

サリ理事長は挨拶の中で、「今日はイエズス会にとってもっとも大切な創立者イグナチオ・デ・ロヨラの祝日であり、その日に上智大学の多様性を体現する留学生の皆さんの受賞をお祝いすることはまさに Happy Feast です。イグナチオの祝日おめでとうございます、そして皆さんの今日の受賞おめでとうございます」と祝福の言葉を述べられました。横山副学長は、「燦燦会が発する光は今日のように皆さんを応援してくれる温かい光です。皆さんが将来大きく成長した時今日のことを思い出し、今度は皆さんが燦燦と人を照らす人になって下さい」と留学生達に語りかけ、「燦燦会のゴールデンエイジャーの志を学生たちと受け止めて次の世代を育てていきたいと思っています」と、燦燦会の会員へのメッセージも送られました。

この後、ヨーロッパ、アジア、アフリカの 8 ヶ国からの 15 名の留学生の名前と所属学部が読み上げられ、会長から一人ひとりに 5 万円の奨学金の目録が手渡されました。

留学生を代表して、インドネシア出身のアグサントゥラ・アロイシウス・ディマスさん（物質生命理工学科 1 年）は、「燦燦会からのサポートは経済的な負担を軽減してくれ、本当に大切な事に集中することを可能にしてくれます。科学を通じて母国に変化をもたらし、健康的な未来に貢献したい」と挨拶しました。また、ドイツ出身のイブラヒム・ファルドーサさん（グローバル社会専攻 2 年）は、「世界中の人々が日本で学びたいと夢を持っているが、多くの人にとって日本への道は難しい。金銭的なハードルと、リスクが高すぎる。留学生として学校の授業や研究に、仕事や暮し、経済的なストレスを持ち込むことはとても難しい」とし、それだからこそ「燦燦会が今年の受賞者に私を選んでくれたことに対して、私の心からの感謝を伝えたいと思います」と述べました。

記念撮影の後、懇親会に移り、留学生達と学生センターのスタッフ、燦燦会会員が軽食をつまみながら、専攻する研究課題のことや、日々の暮らし、また会員の海外経験など懇談の輪がいくつも広がりました。奨学金の一人当たりの金額はささやかなものですが、金額の多寡にかかわらず、この奨学金が彼ら彼女らにとって人生の忘れられない一齣になっていることを確信した一日でした。

総会報告

去る 5 月 16 日ソフィアンズクラブにて今年度総会及び懇親会が開催されました。濱口顧問の指揮のもと全員で校歌の斉唱の後、畔柳会長より 2024 年度の会務の報告が行われました。また、収支・予算報告の際、会計担当の岸本太郎氏は、「新規の入会者を増やすことが会の財政状況改善につながる」と強調しました。

総会を終了し、新たに就任された杉村美紀学長に、

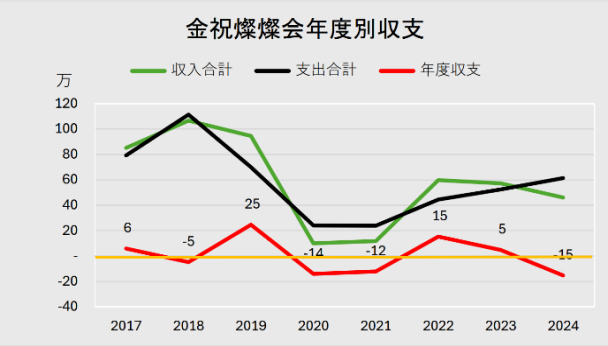
「大学の近況」について講演していただき、新しい大学の進む方向と我々卒業生の使命についてのお話がありました。続いて、戸川宏一前ソフィア会会長の乾杯で懇親会に移りました。

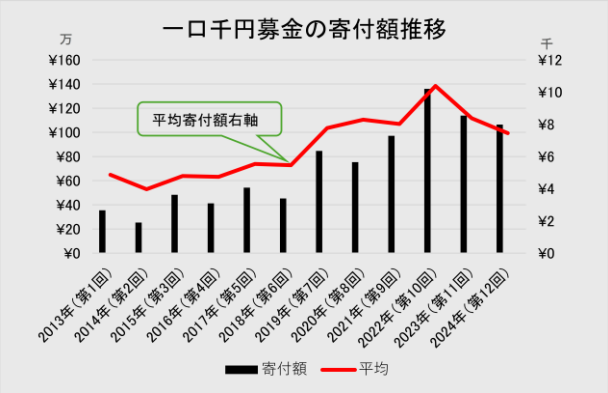
燦燦会は二つの「財布」によって運営されています

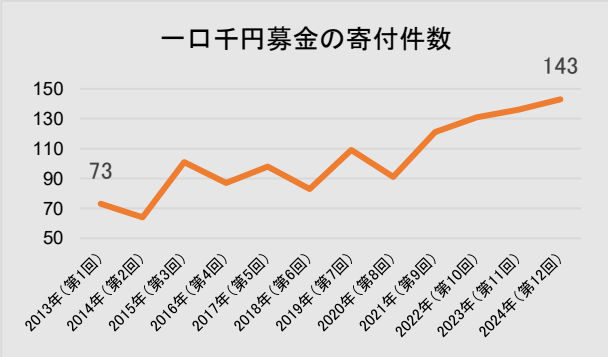
燦燦会が留学生をサポートするための活動資金は、会員の皆様によるご支援によって成り立っています。そのお金には次のように 2 種類あります。

1. 一つは新入会員からいただく終身会費、会員からの献金・イベントへの参加費等を原資とした「財布」です。そして、それは会議費、懇親会費、通信費、印刷費などとして日々の燦燦会を運営するために使用されています。
2. もう一つの「財布」は「一口千円募金」で、燦燦会が会員に寄付のお願いをし、勉学奨励金の奨学金、スピーチコンテスト、俳句コンテストの賞金や留学生による講演の謝礼など留学生に直接還元するために使用されるもので、上智学院が 〈未来募金〉として管理しています。

この二つの「財布」の収支状況はグラフに示されている通りです。一口千円募金の寄付者数は増加傾向にあり、残高は約 300 万円と順調に推移しています。もう一方の燦燦





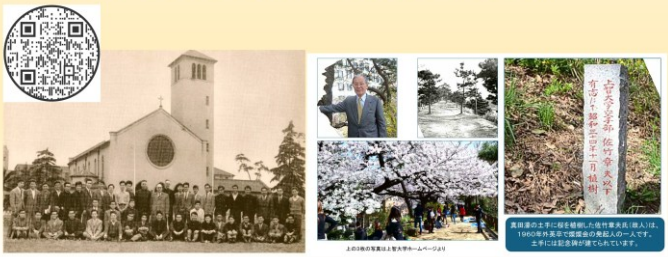


会を運営するための財布は、ここ数年の入会者数が 20 名を下回っており、会員の皆様からの献金等に頼る部分が終身会費を上回っている状況です。燦燦会の安定的な運営のためには何とか各学年の入会者数を 30 名以上にすることが望まれますが、そのための有効な手段がなかなか見つからず執行部では苦慮しています。是非、様々な視点からの会員の皆様のご意見やご提案をお願いします。宛先は、

上智大学ソフィア会事務所気付（住所は P1 のヘッダー参照）、または、sansankai@sophiakai.gr.jp まで。

燦燦会の紹介ビデオ

燦燦会の生い立ち、活動、評価を紹介するスライドショーです。サリ理事長をはじめ多くの皆様から高い評価を得ています。下のQRコードから視聴できます。



- 素晴らしい映像をありがとうございます。目的にふさわしい内容ですし、いい資料にもなりますね。
  上智学院理事長　サリ・アガスティン
- 金祝世代の方々も、YouTube 等でどんどん発信する時代なんですね。素晴らしいです。
  上智大学前総務局長　木下昭子
- コンパクトな中に、燦燦会の活動や理念が盛り込まれた、素晴らしいビデオに仕上がっていると思います。
  上智大学学生局長　杉本昌彦
- 生成 AI も使って、先進的ですね。これからも活発な活動をお祈りいたします。
  上智学院前理事長　佐久間勤
- この度のスライドはほんとに素敵。素晴らしい出来栄えに感謝します。未加入の方々に大いに宣伝いたします。ナレーションも素晴らしいです。
  燦燦会会員　田中立夫
- 手作りとは思えない洗練された内容で、燦燦会を広くアピールできると思いました。
  燦燦会会員　阿見利治
- このビデオはたくさんの人に見てもらいたいです。
  燦燦会会員　戸川宏一

スピーチコンテスト

ASF2025 では昨年に引き続き、ソフィア会国際委員会の協力を得て、留学生による第 11 回日本語スピーチコンテストを開催しました。

テーマを「日本の文化に接して」として、自分の体験談を自分の言葉で語ることに審査の重点を置くことで日本語の初心者でも応募しやすくなるように工夫をしました。

世界各地から日本語の学習期間が 1 年から 12 年までの留学生 12 名の内、予備審査を経て最終的に 10 名による発表があり、優勝はモンゴル出身のムンフェルデネさん、2 位は中国出身のギブンさん、3 位は香港出身のヘイ・リーさん、特別賞は中国出身のショウ・ボクヤさんという結果になりました。

なお、ソフィア会から参加者全員に浴衣提供の目録が渡され、後日、燦燦会が着方教室を開催しました。7 月 11 日の浴衣デーには皆が浴衣を着て参加していました。

俳句コンテスト

恒例の留学生による第 16 回俳句コンテスト 2025 春／夏編の表彰式を、前回と同様 Zoom によるオンラインで 7 月 15 日（火）に開催しました。今回も 16 の国と地域の留学生 21 名から合計 63 句の応募があり、表彰式は学生・先生方が出席し易いように昼休み時間を使って行われ、畔柳会長の主催者挨拶に続き来賓として毎回ご出席を戴いているサリ理事長を始め杉本学生局長及び青柳ソフィア会国際委員長からそれぞれ留学生に寄り添ったご挨拶を戴きました。

Heavy blossom branch
Sparrow takes a hasty seat
Cherry petals flying

はなふさの たわわちらして すずめかな
花房のたわわ散らして雀かな

ADELA PISKACKOVA
アデーラ ピスカチコヴァー
FLA

あめあがりまどべのさけとせみしぐれ
雨あがり窓辺の酒と蝉時雨

Wu Qian
ウ・チアン
言語科学研究科言語学専攻

英語句と日本語句の最優秀作

式は PPT 画面を Zoom 参加者の各 PC・タブレット画面上で共有し、その画面に応じて受賞作者の出身国、所属学部などを紹介した後に、本人が受賞作品を朗読し、畔柳会長より画面上にて賞状・賞金が授与され、いつもながらのなかなか臨場感のある表彰式となりました。

燦燦会の役員に聞く⑥

名簿担当
渡辺多嘉子　69（外露）

++++ 身近に迫る少子化とグローバル化 ++++

酷暑のこの夏、ひと月半に 4 人の友人、知人、叔母のお見送りに接しました。4 人の方は 87 歳から 98 歳の女性で、後には 90 代の夫君！3 名が中高年の子ども世代と日々を過ごされています。

その 4 家族のなかで、50 歳から 62 歳の子ども世代は 6 名（うち既婚者は 1 名）、孫世代は２名です。つまり 4 組 8 名の夫婦の子世代の 6 人中 5 人がシングルで、孫世代が２名ということになります。50 歳を超えている子世代は女性が 4 名、2 名の男性も 60 歳なので、孫世代が増える可能性は高くありません。

これはもちろん統計的な話ではなく、たまたま私の身近にある現実です。子ども世代の 6 名はそれぞれ、社会人として周囲から信頼される仕事・活動の傍ら、高齢の親世代の介護をされてきた、日頃敬愛する方々です。シングルを選び過ごされてきた理由も様々でしょう。

それにしてもと、この 8 人－6 人－2 人にいささか驚きました。日本の人口は急速にゼロに近づくと聞きますが、「日本」は、「日本人」はどうなるのでしょう。今世紀後半の孫世代の生活を思い描くことが難しく、何より心配です。戦後の 60 人学級を経験し、その後の経済的繁栄を謳歌した私たちは、座して看過するほかないのでしょうか。政治の無策、それとも人類史・文化史上のサイクル・摂理でしょうか。何かできることがないのでしょうか。過去に反省すべきことがあったのでしょうか？

一方、燦燦会で出会う留学生の皆さんの大半の方の母国はどうでしょう。たくさんの子どもたちが教育の機会を待ち、未来を信じて目を輝かせていることでしょう。人口増加はまだ当分続くことでしょう。しかし、すべてが限られたこの地球上で、水は？食料は？エネルギーは？保証されてはいません。グローバルな繋がりは必須ですし、だからこそ折り合いをつけて生きていかねばなりません。互いを知り、敬意をもって、分かち合いの心で共に未知の世界に踏み出さなくてはなりません。燦燦会の活動がその一助になることを願い、活動を続けましょう。

世界陸上選手権東京大会での日本人の活躍が連日報じられました。インタヴューに応える、漢字とカタカナ名前の彼らの話す日本語はネイティヴです。あらためて、排外主義的な「日本人ファースト」に踊らされない、たしかな知恵を孫世代のために持ち寄り伝え合いたいものです。

◇◇◇◇◇◇◇◇

会員の状況

2025 年9月末現在の登録会員数は、531 名です。帰天、退会、連絡不要、連絡不可能が 113 名あり、実質会員数は 418 名です。

一口千円募金の状況

今年3月から9月末までに 71 件の寄付があり、合計 614,000 円でした。皆様からのご寄付は留学生を支援するために使用されています。次ページにある勉学奨励金を受賞した「留学生の言葉」をご覧ください。

留学生夢支援懸賞論文奨学金

4 回目の今年は、一次の論文審査を受けた 10 名の中から 4 名の候補者を選び、大学へ提出しました。大学と共同で二次のプレゼンテーション審査を行い、2019 年 11 月 26 日の教皇来校日にちなみ 11 月 26 日（水）に２号館の国際会議場で授与式が開催されます。

燦燦会ではこんな活動もしています

・留学生による講演会

燦燦会では８月を除いて毎月、勉学奨励金、俳句コンテストや懸賞論文の受賞者による講演会を開催しています。

・着方教室

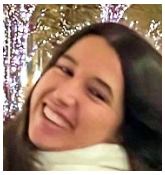
スピーチコンテストの出場者にはソフィア会から浴衣が贈呈されますが、燦燦会で着方教室を開いており、毎年とても好評です。

編集後記　燦燦会の運営実態が、さまざまなグラフによって浮き彫りになりました。入会者数の伸び悩みにより、会の財政が厳しい状況にあることが明らかになっています。一方で、留学生支援事業は、上智学院および上智大学から高く評価されており、会の存在意義は揺るぎないものです。入会者の減少が財政難の主因であることは明白で、執行部では新規会員の獲得に向けた方策を現在検討中です。ぜひ、皆様のお知恵をお借りできれば幸いです。よろしくお願いいたします。（MI）

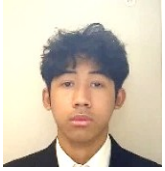
留学生の言葉

勉学奨励金は 2025 年で 13 回目となり、ヨーロッパ、アジア、アフリカの 8 ケ国からの 15 名の学生が選ばれ、7 月 31 日に紀尾井亭にて授与式が開催されました。奨励金の額はささやかですが、受賞者がその目的である学費また研究費に充て、日本文化を体験し、あるいは日本での生活費の助けなどのために有効に活用してくれることを願っております。受賞者からは毎回それに応えるかのような礼状が送られてきます。以下は礼状からの抜粋です。

2025 年度金祝燦燦会勉学奨励金授与式



Elisenda Sanna　**サンナ・エリゼンダ、教育学科、イタリア共和国**
I chose to study at Sophia University after returning from my high school exchange semester in Japan. This experience helped me exploring options for my future career and I got interest in becoming an international teacher. I find education to be the foundation of a society and a hope for change in a world where a lot of certainties are falling apart.　I will use this scholarship wisely to continue pursuing my studies, grow as a person, and one day contribute meaningfully to the field of education.



Agsantra Aloysius Dimas　**アグサントゥラ・A・ディマス、物質生命理工学科、インドネシア共和国**
The abundance of natural resources in Indonesia does not work in line with the quality of human resources. Additionally, the sense of awareness of managing the environment, such as renewable energy and sustainable materials science in processing waste, is still very low. Therefore, this small gap in environmental issues in Indonesia opened my path to begin my research on renewable energy technologies. This scholarship will help me pay my tuition fee and push me to continue my research.

Rasyadan Hafizh　**ラスヤダン・ハフィズ、国際教養学科、インドネシア共和国**
My current area of focus is learning the Japanese language to improve my quality of life in Japan. I am currently enrolled in the Japanese 2 program provided by the CLER, and I plan to keep taking Japanese courses until I reach a high degree of fluency. This scholarship will allow me to focus more on my studies and worry less about financial constraints. I will mainly use this scholarship to buy academic materials for my Japanese studies, sign up for the JLPT next year, and books for my classes next semester.

Peng Bo　**ホウ・ハク、国際関係法学科、中華人民共和国**
将来は、国境を越えた法律問題の解決に携わる国際的な法律家を目指しており、特に「国際私法」の分野に強い関心を持っております。国際私法は、民事において異なる国の法律が交差する中で、どの国の法律を適用すべきかを考える学問であり、私にとって非常に奥深く魅力的です。日々の生活では、専門の授業に取り組む一方で、勉強以外の活動にも力を入れています。現在、地域の異文化交流のボランティアに参加しており、社会に貢献する姿勢を大切にしています。将来は学んだ知識を社会に還元できる人間になれるよう精進してまいります。

Chen Sunjie　**チン・ソンショウ、社会福祉学科、中華人民共和国**
私は中国浙江省出身で、現在は知的障害児を対象とした自立養成教育の研究に取り組んでおります。具体的には、特別支援教育の現場で実践されている支援者活動の手法を検討し、それが子どもの社会性形成や生涯支援にどのように役立つかを研究しています。今は、東京で一人暮らしをしながら、家事やアルバイトと学業の両立を心がけ、いつも時間の使い方や自己管理能力を磨いております。将来は特別支援教育の現場で、カリキュラム設計や支援システム構築に携わり、すべての子どもが安心して学び、成長できる場づくりに貢献したいと考えております。

Moe Thant Phyu　**ピュウ・モータン 、国際教養学科、ミャンマー連邦共和国**
As a student studying business and economics, my studies focus on understanding the core principles that drive the global economy, business management, and financial systems…This scholarship is not only a financial aid but also a source of encouragement that motivates me to keep pushing forward, even during difficult times. Your generosity inspires me to continue working hard so that one day, I too can give back and support future students just as you have supported me.

Yuan Lu　**ゲン・ロ、イスパニア語学科、中華人民共和国**
今学期の研究テーマはラテンアメリカ早期植民地時期に原住民保護運動に取り組んだスペイン人たちの動きです。私はスペイン語圏だけでなく、他の地域の思想、歴史、文芸作品にも非常に興味を持っております。今学期ではアフリカ研究、ラ米現代史、イギリス文学、アメリカ文学などの授業も多数履修しています。日常的には、本を通して世界歴史、思想の変遷などに着眼し、知識と教養の構築に努めております。皆様のサポートは私を経済的に助けてくださるだけでなく、学業へのさらなる献身のための励みになります。

Kalunta, Chizoba Mercy　**カルンタ・チゾバ・メルシー、地球環境学専攻、ナイジェリア連邦共和国**
My current research focuses on fermented foods and their role in reducing food waste and supporting gut health. This topic sits at the intersection of three global priorities: sustainable food systems, preventive health, and environmental resilience. I am particularly inspired by how traditional food knowledge can offer practical solutions in communities facing food insecurity and limited access to healthcare.　Adjusting to life and studies in Japan has been both challenging and rewarding. It has strengthened my resilience, deepened my cultural understanding, and broadened my perspective through interdisciplinary and international exchange.

Giulia Marcarino　**マルカリノ・ジュリア、地球環境学専攻、イタリア共和国**
Daily life as an international student can be both exciting and challenging. Balancing studies, part-time work, and adapting to a different culture has taught me resilience and time management. Despite the busy schedule, I find joy in the small moments, studying at the library, talking with friends from different countries, and exploring Japan. This scholarship will allow me to participate in an upcoming academic field trip that I could not otherwise afford. The experience will greatly enrich my university education, offering hands-on learning and the chance to connect theory with practice.

Tisighe Carosta Lum、**ティシゲ・カロスタ・ラム、地球環境学専攻、カメルーン共和国**
My current research focuses on exploring the role of traditional African weaving practices in advancing modem sustainability. Rooted in cultural heritage, these weaving techniques especially from the western grassfields of Cameroon offer ecological balance, and community-based economic systems. Through my studies in Japan, I aim to bridge indigenous knowledge systems with global sustainability models, contributing to both academic understanding and real-world solutions in sustainable development. Your support is a reminder that kindness can cross borders and empowers dreams.

Sara Roehrig　**ルーリッグ・サラ、地球環境学専攻、ドイツ連邦共和国**
I am originally from Germany and hold a bachelor's degree in Geography and Communication and Media. Having previously studied in Japan during my undergraduate exchange program, I developed a strong appreciation for Japan's environmental leadership, academic excellence, and cultural depth. These experiences inspired me to return to Japan to pursue my graduate studies, with the goal of gaining knowledge and skills in an international context that will enable me to contribute meaningfully to sustainable development, especially in developing countries.

Evelyn Mawufemor Agbanaglo　**エヴリン・M・アグバナグロ、教育学専攻、ガーナ共和国**
As a first-generation graduate student, I carry not only my personal ambitions but also the hopes of my heartfelt thanks to Sansankai for this generous scholarship. As a self-financing international student, your support has not only eased my financial burden but also given me comfort and encouragement to pursue academic excellence. Knowing it comes from Sophia University Goldenagers-graduates who once walked a similar path makes it even more meaningful. The dedication you show in giving back, through your time and resources to support students like me and others, is truly inspiring and deeply appreciated. Your kindness motivates me to work hard and, one day, extend the same generosity to others.
Akpe ! Mawu ne yra mia katã. (Thank you ! God bless you all.) **ありがとうございました**

Saw Zarni　**ソウ・ザルニ、理工学専攻、ミャンマー連邦共和国**
By the grace of the generous offer from Kinshuku-sansankai, I am able to reduce my part-time working hours and focus more on my studies with ease. In good faith, I will use the awarded prize to pay tuition fees for the upcoming semesters, allowing me to complete my graduate program and advance my research. I am sincerely thankful to Kinshuku-sansankai for granting me this opportunity, and I will work even harder in my studies with the strong encouragement provided by this scholarship.

Liu Peiyu　**リユウ・ペイユウ、理工学専攻、中華人民共和国**
My main research focus is attribute-based encryption. After receiving the scholarship, will use it for daily expenses and Japanese language study, and I will buy a few books for Japanese study and culture. I think it's a good thing to use the scholarship to enrich my knowledge, because I plan to work in Japan, so it's necessary to learn Japanese culture. I am very grateful to the school and the Kinshuku-sansankai for providing me with this opportunity to participate in the award ceremony on July 31, I think it is very meaningful to communicate with my seniors and meet more outstanding people.

Fardousa Ibrahim　**イブラヒム・ファルドーサ、グローバル社会専攻、ドイツ連邦共和国**
I was born in Germany to Somali refugee parents who fled the civil war in Somalia. As the second youngest of six children and the first in my family to pursue higher education, I have had to overcome many challenges to reach this point. At Sophia University, I am researching the cultural barriers that foreign workers face in Japanese workplaces, and how these can be overcome. My goal is to contribute to a more inclusive and globally connected society by using my multicultural background to build bridges between Japan, Somalia and Germany.